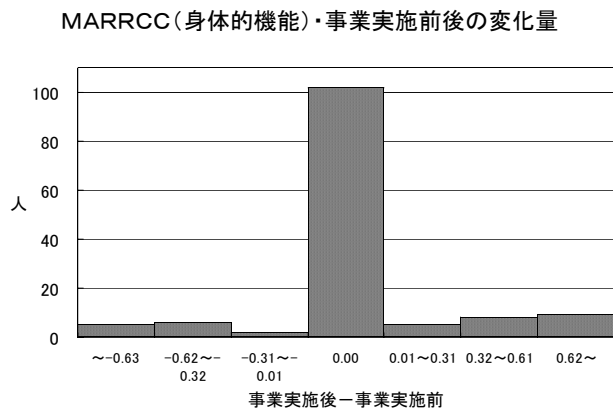
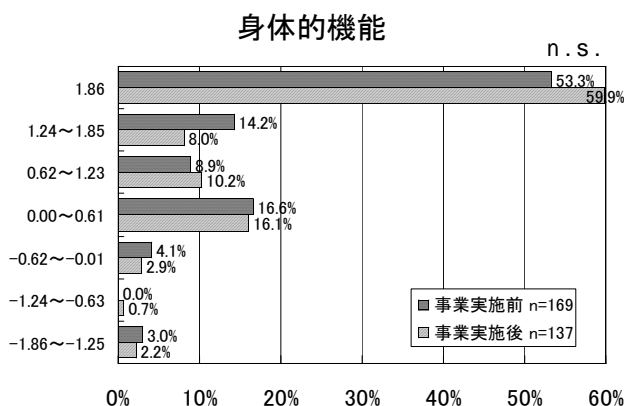


## 2 MARRCC等(単純集計)

### (1) 身体的機能

#### 【主な調査項目(概要)】

自主的に(介助の有無は不問)移動できるか、又は自力で車椅子を動かすことができるか。  
 すべて又はほとんどの日常生活動作(着替え、食事等)が自力でできるか。  
 疲労が目立つことなく、1時間以上続く活動に積極的に参加できるか。等



		人数	事業実施前平均	事業実施後平均	向上した者の割合	維持した者の割合	低下した者の割合	統計的有意差の有無
合 計		137人	1.26	1.32	16.1%	74.5%	9.5%	
グループ別	ゲーム機器等活用	28人	1.10	1.07	7.1%	78.6%	14.3%	
	物品作成等	50人	1.32	1.39	12.0%	86.0%	2.0%	
	その他	59人	1.28	1.38	23.7%	62.7%	13.6%	
男 女 別	男	37人	1.09	1.13	16.2%	73.0%	10.8%	
	女	100人	1.32	1.39	16.0%	75.0%	9.0%	
要介護度別	要支援~要介護1	87人	1.46	1.58	16.1%	77.0%	6.9%	*
	要介護2以上	50人	0.90	0.87	16.0%	70.0%	14.0%	
認知症高齢者の日常生活自立度判定基準	該当なし又はランク	102人	1.36	1.46	14.7%	79.4%	5.9%	*
	ランク 以上	35人	0.97	0.90	20.0%	60.0%	20.0%	
施 設 別	天橋の郷	52人	1.40	1.47	15.4%	78.8%	5.8%	
	亀岡あゆみ	55人	1.33	1.43	25.5%	58.2%	16.4%	
	西小倉	30人	0.89	0.87	0.0%	96.7%	3.3%	

事後調査では、事前調査と比較して1.86点(満点)が53.3%から59.9%に増加した。

全体では、事業実施前と実施後との間に統計的な有意差が見られるまでには至らなかった。

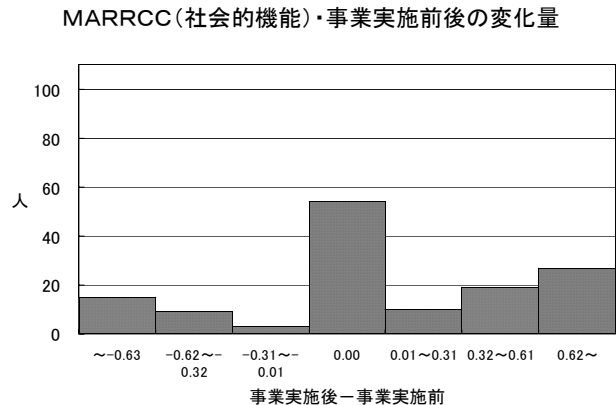
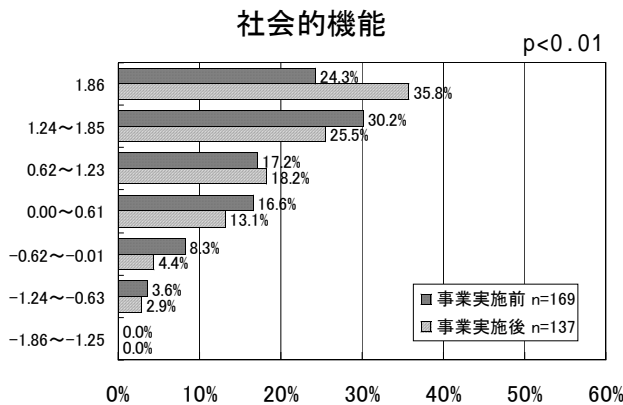
これは、MARRCCがもともと施設入居者を対象とする評価手法であり、比較的軽度者が多いデイサービスセンター利用者の身体的機能は事業実施前の段階からすでに高めに測定されたことが一つの原因であると考えられる。

対象者別に見ると、「要支援~要介護1」及び「該当なし又はランク」で統計的な有意差が見られた。

(2) 社会的機能

【主な調査項目（概要）】

自分から人に話しかけ、社会的交流の機会を持つとするか。  
 他人からの話しかけや社会的交流に対して口頭で反応するか。  
 少人数のグループの場で肯定的な反応をするか。 等



		人数	事業実施前平均	事業実施後平均	向上した者の割合	維持した者の割合	低下した者の割合	統計的有意差の有無
合計		137人	1.08	1.22	40.9%	39.4%	19.7%	**
グループ別	ゲーム機器等活用	28人	1.10	1.39	42.9%	50.0%	7.1%	**
	物品作成等	50人	1.17	1.31	34.0%	50.0%	16.0%	
	その他	59人	0.98	1.07	45.8%	25.4%	28.8%	
男女別	男	37人	0.75	0.91	45.9%	35.1%	18.9%	
	女	100人	1.19	1.34	39.0%	41.0%	20.0%	*
要介護度別	要支援～要介護1	87人	1.28	1.42	39.1%	42.5%	18.4%	*
	要介護2以上	50人	0.71	0.89	44.0%	34.0%	22.0%	
認知症高齢者の日常生活自立度判定基準	該当なし又はランク	102人	1.21	1.36	38.2%	44.1%	17.6%	**
	ランク 以上	35人	0.67	0.83	48.6%	25.7%	25.7%	
施設別	天橋の郷	52人	0.98	1.19	42.3%	38.5%	19.2%	*
	亀岡あゆみ	55人	0.88	1.00	50.9%	18.2%	30.9%	
	西小倉	30人	1.60	1.70	20.0%	80.0%	0.0%	*

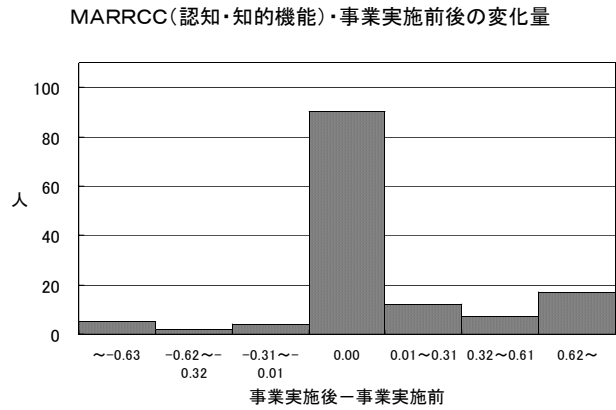
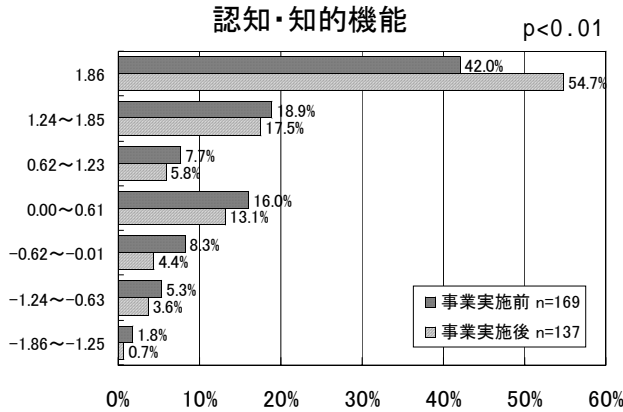
事後調査では、事前調査と比較して1.86点（満点）が24.3%から35.8%に増加した。  
 また、事業実施前と実施後との間に統計的な有意差（ $p<0.01$ ）が見られた。

対象者別に見ると、「ゲーム機器等活用グループ」、「女」、「要支援～要介護1」及び「該当なし又はランク」で統計的な有意差が見られた。

(3) 認知・知的機能

【主な調査項目（概要）】

自分の力で適切に選択することができ、それを効果的に表現することができるか。  
 話題や作業に注意を払うための声掛けは10分に1回以下であるか。  
 自分の人生について説明できるか（誕生日、旧姓、職歴、生まれ故郷等）。 等



		人数	事業実施前平均	事業実施後平均	向上した者の割合	維持した者の割合	低下した者の割合	統計的有意差の有無
合計		137人	1.15	1.32	26.3%	65.7%	8.0%	**
グループ別	ゲーム機器等活用	28人	1.21	1.32	21.4%	71.4%	7.1%	
	物品作成等	50人	1.35	1.63	32.0%	60.0%	8.0%	*
	その他	59人	0.95	1.05	23.7%	67.8%	8.5%	
男女別	男	37人	1.01	1.20	27.0%	62.2%	10.8%	
	女	100人	1.20	1.36	26.0%	67.0%	7.0%	**
要介護度別	要支援~要介護1	87人	1.40	1.60	26.4%	71.3%	2.3%	***
	要介護2以上	50人	0.71	0.82	26.0%	56.0%	18.0%	
認知症高齢者の日常生活自立度判定基準	該当なし又はランク	102人	1.42	1.59	22.5%	75.5%	2.0%	***
	ランク 以上	35人	0.37	0.52	37.1%	37.1%	25.7%	
施設別	天橋の郷	52人	1.31	1.60	38.5%	50.0%	11.5%	**
	亀岡あゆみ	55人	0.92	1.03	27.3%	63.6%	9.1%	
	西小倉	30人	1.30	1.34	3.3%	96.7%	0.0%	

事後調査では、事前調査と比較して1.86点（満点）が42.0%から54.7%に増加した。  
 また、事業実施前と実施後との間に統計的な有意差（ $p < 0.01$ ）が見られた。

対象者別に見ると、「物品作成等グループ」、「女」、「要支援~要介護1」及び「該当なし又はランク 以上」で統計的な有意差が見られた。

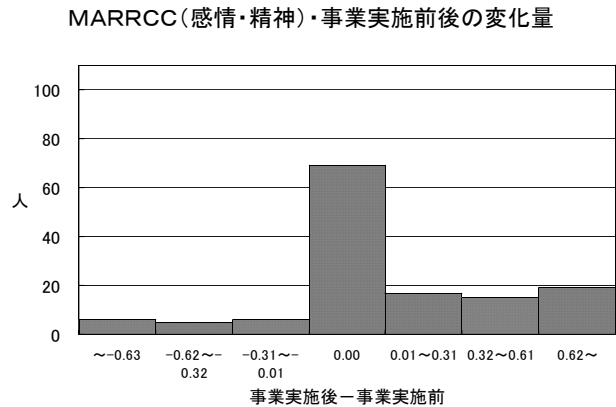
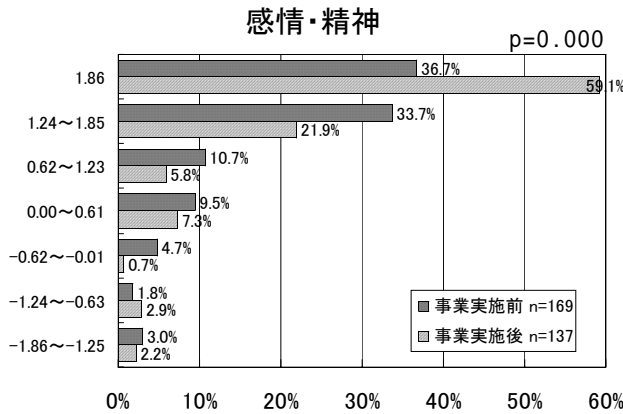
(4) 感情・精神

【主な調査項目（概要）】

本人が「自由時間に何をするかを自分で決定することができる」等の気持ちであると言えるか。

本人が「他人のためや他人に役立つことができる」等の気持ちであると言えるか。

個人的なニーズを伝えることができるか。 等

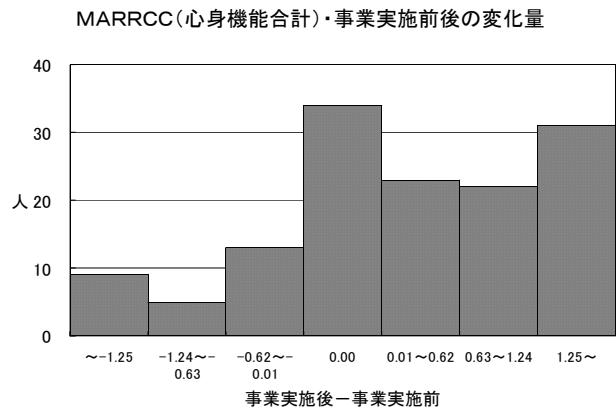
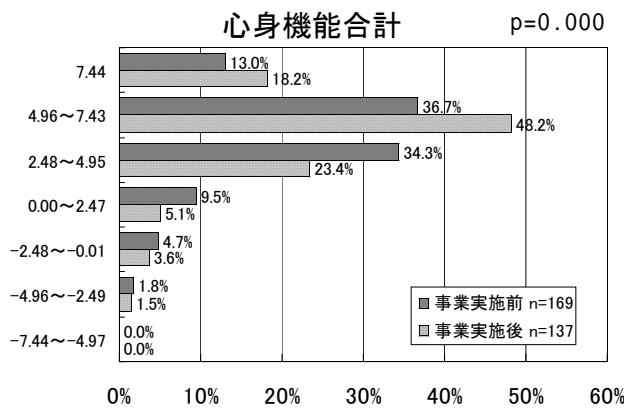


	人数	事業実施前平均	事業実施後平均	向上した者の割合	維持した者の割合	低下した者の割合	統計的有意差の有無	
合計	137人	1.27	1.45	37.2%	50.4%	12.4%	***	
グループ別	ゲーム機器等活用	28人	1.42	1.49	28.6%	60.7%	10.7%	
	物品作成等	50人	1.32	1.61	50.0%	42.0%	8.0%	***
	その他	59人	1.17	1.30	30.5%	52.5%	16.9%	
男女別	男	37人	1.14	1.39	43.2%	37.8%	18.9%	*
	女	100人	1.32	1.48	35.0%	55.0%	10.0%	**
要介護度別	要支援~要介護1	87人	1.49	1.72	36.8%	56.3%	6.9%	***
	要介護2以上	50人	0.89	0.99	38.0%	40.0%	22.0%	
認知症高齢者の日常生活自立度判定基準	該当なし又はランク	102人	1.51	1.70	35.3%	57.8%	6.9%	***
	ランク 以上	35人	0.59	0.72	42.9%	28.6%	28.6%	
施設別	天橋の郷	52人	1.34	1.60	57.7%	28.8%	13.5%	**
	亀岡あゆみ	55人	1.12	1.28	29.1%	52.7%	18.2%	
	西小倉	30人	1.44	1.52	16.7%	83.3%	0.0%	*

事後調査では、事前調査と比較して1.86点（満点）が36.7%から59.1%に増加した。  
また、事業実施前と実施後との間に統計的な有意差（p=0.000）が見られた。

対象者別に見ると、「物品作成等グループ」、「男」、「女」、「要支援~要介護1」及び「該当なし又はランク」で統計的な有意差が見られた。

(5) 心身機能合計



		人数	事業実施前平均	事業実施後平均	向上した者の割合	維持した者の割合	低下した者の割合	統計的有意差の有無
合 計		137人	4.75	5.31	55.5%	24.8%	19.7%	***
グループ別	ゲーム機器等活用	28人	4.83	5.27	42.9%	42.9%	14.3%	*
	物品作成等	50人	5.17	5.94	64.0%	26.0%	10.0%	***
	その他	59人	4.37	4.80	54.2%	15.3%	30.5%	*
男 女 別	男	37人	3.99	4.64	59.5%	18.9%	21.6%	**
	女	100人	5.04	5.56	54.0%	27.0%	19.0%	***
要介護度別	要支援~要介護1	87人	5.64	6.31	60.9%	25.3%	13.8%	***
	要介護2以上	50人	3.22	3.57	46.0%	24.0%	30.0%	
認知症高齢者の日常生活自立度判定基準	該当なし又はランク	102人	5.49	6.11	55.9%	29.4%	14.7%	***
	ランク 以上	35人	2.60	2.98	54.3%	11.4%	34.3%	
施 設 別	天橋の郷	52人	5.02	5.86	69.2%	15.4%	15.4%	***
	亀岡あゆみ	55人	4.25	4.73	56.4%	10.9%	32.7%	*
	西小倉	30人	5.23	5.43	30.0%	66.7%	3.3%	*

事後調査では、事前調査と比較して「身体的機能」「社会的機能」「認知・知的機能」「感情・精神」の各領域とも1.86点（満点）が増加しており、4つの領域を合計した心身機能合計についても7.44点（満点）及び4.96～7.44点が増加した。

事業実施前と実施後に統計的な有意差（ $p=0.000$ ）が見られたことから、「通所介護カフェテリアプラン導入事業」が利用者の心身機能の向上に効果があったことが認められた。

なお、対象者別に見ると、「要介護2以上」及び「ランク 以上」以外のすべてで統計的な有意差が見られた。